

と、則ち波斯教經の名の與へられたる所以を知るべし。余もとより宗教學に於て知る所なし、されど殘經を通讀すれば、明らかにこれマニ教 (Manicheism) 經典にして、決して彼の景教と混同すべきに非ず。則ち此の一篇を草して以て羅氏の厚意に答へ、一方之を學界の珍として同學の士の一餐に供せんとす。然も其の全文は同誌十四枚の長きに亘り、今悉く之を掲出し得べきに非ず、只其の數句を抽出して、以て此經の性質を定め、更に此經の示す所によりて、東方のマニ教に關する諸學者の説を少しく補ふを以て止まんとす。

### 一 教義上より見たる殘經の性質

此經は羅氏の序文にも見るが如く後の一  
部のみ完全に存せるものにして、明使なるものが阿駄なるものゝ間に答へて、其の疑義を解かんが爲に、世界創造の所以を説くに始まり、次でまた、諸宗徒に明暗二力の爭鬭の有様を説き、轉じて此宗教の上より見たる完全圓滿なる人格を説示するに終れり。その第四行以下に曰く、

余時明使告阿駄言、善哉善哉、汝爲利益无量衆生、能問如此甚深祕義、汝今卽是一切世間盲迷衆生大善知識、我當爲汝分別解說、令汝疑網永斷無餘、汝等當知、卽此世界未立以前、淨風善母二光明使、入於暗坑无明境界、拔擢驍健常月 大智甲五分明身、策持昇進、令出五坑、其五類魔、黏五明身、如蠅著蜜、如鳥被鸚、如魚吞鈎、以是義故、淨風明使以五類魔及五明身二力和合、造成世界十天八地、云

と、これ此宗教に於て世界十天八地の生成を説けるものにして、暗坑無明界に陥りし五個の明身と、及び之に附纏せし五個の惡魔との和合を以て、淨風明使なるものが造成せりと成せるものなり。其の明といひ、暗といひ、而し